



1.19-20 2024 春闘討論集会

2024 春闘目標 県本部、「賃金改善」と「必要な人員の確保」目指す

1月19日-20日、安中市「ホテル磯部ガーデン」にて、県本部主催による2024春闘討論集会が開催された。県本部執行部ほか各単組から四役を中心に102名の参集があり、太田市職労からは委員長ほか5名が出席した。当日は午前全体協議と講演聴講、午後は分科会によるグループ討議が行われ、単組間で情報共有と討議が行われた。



▲新春討論会の会場の様子。当日は県内から多くの役員が参集した



▲会場となった「ホテル磯部ガーデン」(安中市)。童話「舌切り雀」発祥の地として知られる



▲ホテル内に設置されていた「安中ふるさと納税初号機」。自販機方式で即日ふるさと納税が可能

午前の部 2024 春闘に向けた方針の確認と招待講師による講義で理解深める

午前の部の全体集会では、県本部の提起による2023賃金確定闘争の中間総括が行われた。昨年末の賃金確定闘争について全国の自治体の動向に触れつつ、群馬県内各単組ごとの活動状況の総括を行うとともに今後の課題が共有された。また、県本部は2024春闘方針を示し、民間春闘が夏の人事院勧告の内容に影響することから、民間労組が目指す「定期昇給分5%の賃上げ」「時給1,200円以上」の実現に向けて、民間労組へ結集することで「賃金改善」のほか、働くための

環境改善のために「必要な人員の確保」を求める方針を示した。続く講演学習では労働大学より講師を招き「2024春闘の情勢と私たちの課題」をテーマに、歴史経過を振り返りながら日本における労働環境の諸課題をデータを用いて示し、自身の単組時代の活動を踏まえた講演が行われた。講師は、2024春闘では1997年から引き下げられた賃金水準の回復を焦点にする必要を説き、その他労働環境に関する情勢に触れながら、参加者は一様に見識を深めた。

午後の部 グループ討議による情報共有と単組課題抽出

午後の部では各討論テーマをもとに分科会が実施された。「賃金・労働条件」に関する分科会では、グループ討議形式で各単組が抱える課題を共有したほか、春闘に向けた取り組むべき課題について各参加者同士で意見交換を行なわれた。時間外勤務(残業)申請を巡っては「19時を過ぎるまで申請をしない慣習ある」「少しでもあれば申請」「残業による成果物の提示がないと認められないこともあった」など各単組ごとに異なる運用が行われていることについて確認された。

その他、人事運用制度の情報共有も行われ、太田市で課題となっている中途採用者の処遇については、各単組において

も運用は様々であるが一様に問題視されており、今後の運用について情報共有の内容を踏まえ議論された。また、昨今の人事院勧告では若年層職員に手厚い待遇がある一方で、中堅・ベテラン層への処遇改善が希薄であることについて問題提起が行われた。各単組レベルで行える取り組みとしては、給与条件の改善はハードルが高いことから、当面はワークライフバランスの向上や休暇、育児との両立支援等に注力することが肝要であるとし、2024春闘で求めるべき事項について確認を行った。

2024 春闘前アンケート集計結果について (報告・お礼)

みなさんこんにちは。教育宣伝部です。大変遅くなりましたが今年もよろしくお願ひします。

今年の1月、新春朝ピラほか職場委員を通じてご協力をいただき実施しました「2024春闘事前アンケート」について、集計が完了しましたので一部を抜粋して結果を報告します。本アンケートは今春に行われる春闘を前に、各職場の問題点

や組合員からの要望を汲み上げて要求事項とすることを目的に行われるものです。

今回のアンケートは130名の方にご協力をいただきました。(重複・完全無回答は削除済)ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。

まずは今回ご協力いただきました回答者の基本情報をお伝えします。回答者について、『役職』は「主事・技師」「主任」「係長代理」から概ね均等にご回答頂いており、回答者の中には「係長」「会計年度任用職員」の方も含まれるなど多岐にわた

りました(表1)。一方、『所属(部)』については偏りが見られる結果となり、今後は全所属の方から回答をいただける仕組みづくりを確立することが課題となりました(表2)。

残業月0~10時間が8割強、人事課目標を概ね達成

『平準期のひと月あたりの残業時間』についての調査を行うと、集計結果の通り、回答者の81.4%(105人/130人)が「ひと月あたり0~10時間」と残業時間が低く抑えられていることが明らかとなりました(表3)。職員の残業時間を巡っては、太田市人事課が作成する『太田市特定事業主行動計画 後期

(令和2年度~令和6年度)』によれば、人事課は令和6年度までに職員の時間外勤務時間を84時間/年・人(換算するとひと月あたり平均7時間/人)とすることを目標としていますから、今回の調査結果から概ねこの目標値に近い達成状況であることが確認されました。

時間休15分単位希望5割弱、「あさ活・ゆう活」肯定的もしわ寄せが課題

時間休制度の運用について、現行制度は1時間単位とされていますが、15分単位を希望する声が47.7%と多数確認されました(表4)。そのほか「30分単位」や「半休」まで含めると8割以上の回答者が時間休制度の改正を希望していることが確認されました。自由な働き方が注目される昨今、弾力的な運用を求める声が多くあることが伺えます。

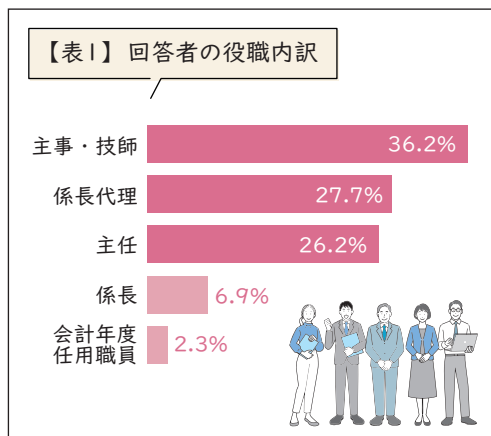
ことも確認されました。制度肯定派が支配的な一方で、反対や疑問を呈する声も多く寄せられており、「窓口業務のため利用できない」、「直属上司が結構使っており、30分前に帰ってしまうため、人が少なくなるのでそんなには使えない。」など制度の利用が行えないという声も聞かれました。その他にも、制度の趣旨に沿わない運用が現場でされている実態や「とったもん勝ち」の風潮があるなど、制度利用を巡って他の職員へのしわ寄せや意識に隔たりが生じていることが確認されました(あさ活・ゆう活についての意見(抜粋)を参照)。

『あさ活・ゆう活』制度については64.3%が「賛成」と肯定的な見解を示しています(表5)。制度の利用率も「利用している」が48.8%(63人/130人)と半数が利用している

直近1年以内のパワハラ被害10人(7.7%)

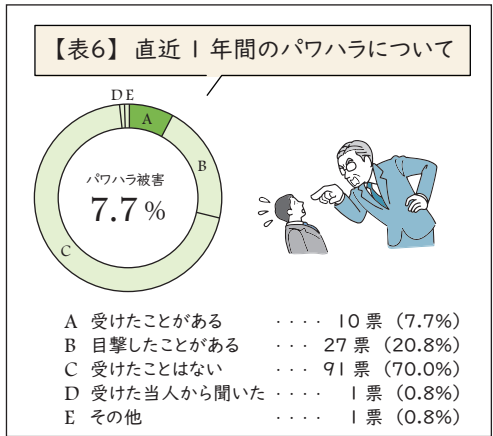
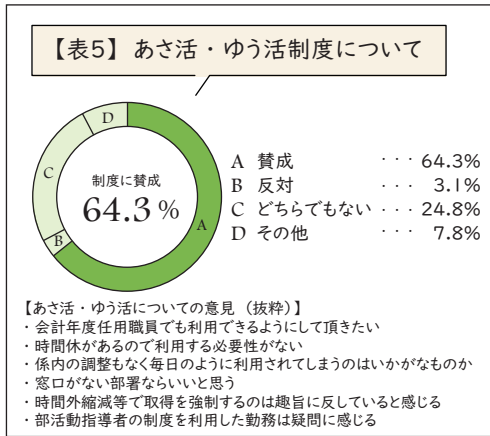
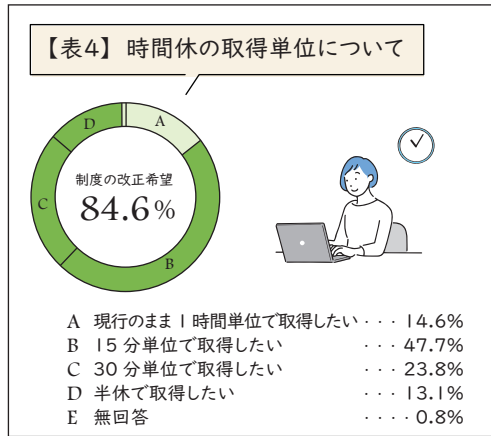
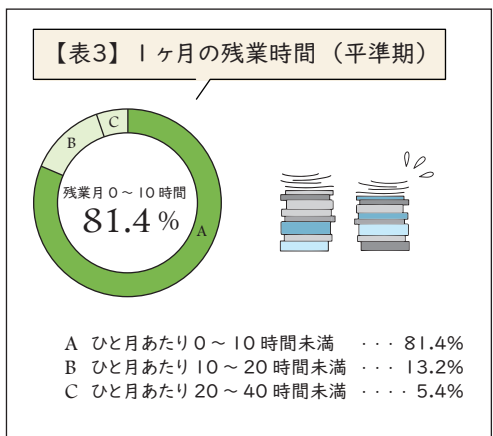
『直近1年の間に、職場でパワハラ被害を受けたことはありますか』という問いに対しては、7割の回答者が「受けたことはない」と回答した一方、10名(7.7%)が「ある」と回答しています。『パワハラを行った人の名前を教えてください』という質問では、複数の回答者から特定の部局に集中的かつ同一人物の名前が挙げられたこともあり、当局を交えて協議が必要となる事案も確認されました。

さい』という質問では、複数の回答者から特定の部局に集中的かつ同一人物の名前が挙げられたこともあり、当局を交えて協議が必要となる事案も確認されました。



【表2】回答者の所属(部)内訳

所属部	回答数	所属部	回答数
企画部	3	農政部	16
総務部	17	都市政策部	12
市民生活部	17	行政事業部	3
文化スポーツ部	0	議会	5
福祉こども部	18	教育委員会	11
健康医療部	17	その他	7
産業環境部	3	未回答	1
		合計	130



紙面の都合上、結果を一部抜粋しての結果報告となりました。これ以外にも様々な意見が寄せられており、この場ですべての内容を発信できないことが残念ですが、寄せられたすべての意見については執行部で確認と共有を行っております。早急に対応が求められる事項については、既に解決に向けた準備を開始しており、

当局への個別折衝や今後の労使協議で解決できるように努めております。今後とも太田市職労へのご協力をお願い致します。また、ご回答いただいた方の中から抽選で景品をお配りいたしました。太田市内業者が生産・販売しているものが中心ですので、ぜひともリピートをお願いいたします!